

元気の出る情報・交流誌

2024

9月

[No.823]

手をつなぐ

特集

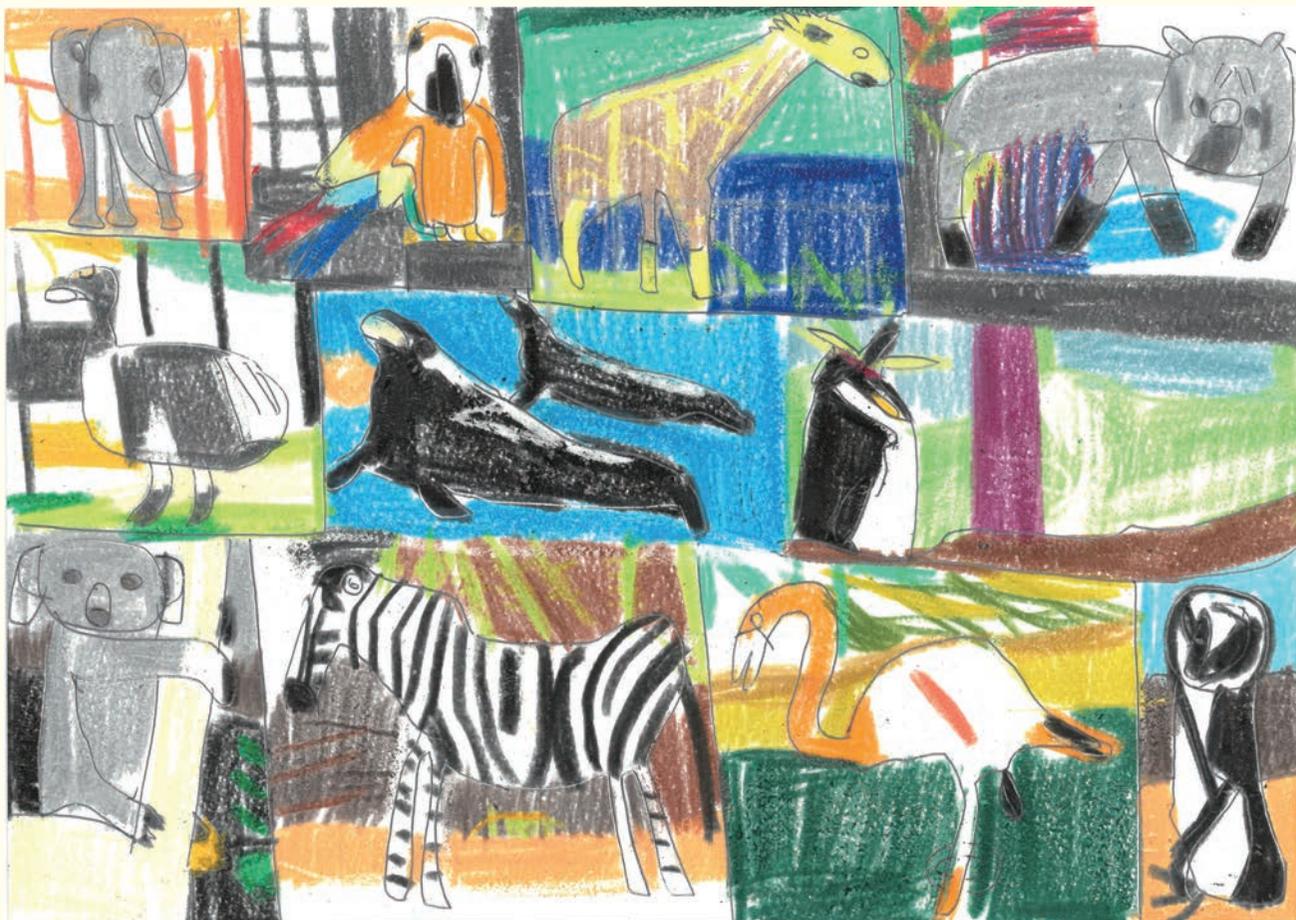
能登半島地震を知る

今月の問題

被災地域における障害福祉サービス事業の維持を

ひびき

山田 浩 (パンジーメディア)



- わたしの姉は福の神 [最終回] 最後に…… 瀧川末子
わたしたちも言いたい 私にとって大切なもの 服部未知可 2
知りたい! あなたの見ている・感じている世界 [第6回] 気持ち伝わる「お茶」 打浪文字 5

特集

能登半島地震を知る

被災地からのメッセージ

- 震災から5カ月が経過して 袖谷恭子 8
「真心」を思い出せ! 前へ進む! 鍛冶谷 真一 10

被災地での支援

- 広域避難後の生活再建支援が重要 羽村 龍 12
福祉施設が担う災害支援の在り方 雄谷良成 14
被災した障害のある人への相談支援 富岡貴生 16
被災した障害のある人の状況と当時の支援 寺西里恵 18
災害時の子どもの居場所づくり 北川聡子 20
子どものトラウマへの支援 榎屋二郎 22
住み慣れた地域で生活再建をめざす 鍵屋 一 24
能登半島地震 熊本からのメッセージ 西 恵美 26

今月のオススメ 29

ひびき

- 自分たちの思いや考えを届ける知的障害者による放送局 山田 浩 30
いっしょに話そう! 性のこと。第18回
避妊について④ 緊急避妊薬 (アフターピル) について伝える 門下祐子 33

今月の問題

- 被災地域における障害福祉サービス事業の維持を 34

読者投稿 37

くらしを支える福祉の制度 第44回

- 障害者虐待防止法について その3 又村あおい 38

あなたの街の育成会

- 広く手をつなぎあう育成会をめざして
草津手をつなく育成会 中島由里子 40

中央の動き

- 障害保健福祉関係主管課長会議が開催されました (4) 42

ニュースのじかん 45

枝元なほみのしあわせごはん いち、にっ、さん! [Lesson89]

- お腹も心も温まる、栄養満点のスープ

◎ 表紙絵作者のプロフィール

- 木崎 佳 (きざき・けい) 39歳 ■愛知県名古屋市長 ■タイトル 動物園の仲間たち
■ひとこと 東山動植物園の動物です。趣味はジョギング、お絵かき、そしてバス・電車の写真を撮ることです。

私にとって大切なもの

栃木県

服部未知可

私は地域の小学校に通っています。6年3組19番はっとりみちかです。

好きな授業は音楽と体育と英語です。苦手な授業は算数です。

クラスでは体育係をしています。

私にはおともだちがいます。

いっしょに勉強したり、給食を食べたり、おしゃべりをしたりとても楽しいです。

私の車いすを押してくれたり、授業の用意をしてくれます。

ありがとうと言うと、いいよーって言ってくれます。

でも今、なかなかクラスのみんながそろわないので、私は心配でさみしいです。
かぜかな、元気ないのかな、と毎日気にしています。みんながそろおうといいです。

私は学校が大好きです。おともだちがいて、先生がいてサイコー！です。

11月には修学旅行にいきます。みんなでいけるといいなと思っています。



「わたしたちも言いたい」ではみなさまからのお便りを募集しています（宛先は48ページ）。
生活のこと、仕事のこと、暮らしのことなどふだん感じていることを書いてお送りください。

能登半島地震 を知る

2024(令和6)年1月1日。能登半島地震が発生しました。この地震は、能登半島をはじめ、北陸地方全域に大きな被害をもたらしました。

現在、建物や道路だけでなく、人と人の関係も含め復旧復興は進んでいるのでしょうか。

本特集では、障害のある人が当時どのような状況に置かれたのかを知り、懸命に支援してきた支援者たちの体験から、地震だけでなく災害時に求められる、障害のある人に対する支援について考えていきます。



被災地からのメッセージ

震災から5カ月が経過して

石川県・社会福祉法人すず樫 主任 柚谷恭子

避難所での生活

能登半島最先端に位置する、社会福祉法人すず樫と申します。

震災当日、当法人の就労支援B型通所施設は元日ということで休業していましたが、その1.5km先にあるグループホーム「ラポールすず樫」「クオーレすず樫」には、帰省されていなかった利用者4人、ショートステイ利用者1人、スタッフ2人がいました。

16時10分の大きな揺れが収まった後、大津波警報のサイレンが鳴り響きました。スタッフ2人は5人の利用者を何とか車に乗せ、高台にある消防署へ避難しました。

しかし、落ち着いたのもつかの間、別

の避難所へ移るよう指示があり、移動を余儀なくされました。

避難所では、多くの方が床に寝ていて歩行が不安定な利用者は通るのが大変だったとのこと。また、精神的に動揺し座って休むことができない利用者は、ずっと立ったままで過ごしていたようです。

そして、状況理解が難しく夜間も頻繁にトイレに通う人に対して「しょっちゅうトイレに行って」と周囲から厳しい声を掛けられたことも、利用者と職員の間で負担になりました。

3日後にグループホームに戻れた

途中からは他職員もかけつけ、協力して利用者をサポートし、ようやく3日後、

幸い電気が来ていたグループホームにみなさんを連れて戻ることができました。

グループホームに戻ってからも、食事、排せつをどうするか、スタッフが苦心していたところ、仮設トイレを借りることができたり、支援団体の方が物資を届けたださったり。利用者のみなさんの食料も確保することができました。津波で持ち物すべてを流された利用者やスタッフもいたため、衣類の支援には助けられました。

2月5日から「すず樫」の通所が再開されましたが、登録している約半数が市外へ避難されており、道路が危険で出てこれない人もいるような状況でした。

また、課題もありました。まずは、みなさんの昼食をどうするか。断水のなか、お弁当を持って来られる人はいません。震災前にお願っていたお弁当屋さんはいませんでした。

「毎日、冷たい缶パンではかわいそう」という保護者の声もありました。

そこで、特定非営利活動法人静岡市障害者協会の松山さんにご相談したところ、食事を作られているピースポルト災害支